

福祉情報誌

編集 / 社会福祉法人AJU自立の家
福祉情報誌発行委員会
発行 / AJU車いすセンター
わだちコンピュータハウス
連絡先 / 〒466-0025
名古屋市中区下横町1-3-3
わだちコンピュータハウス内
TEL(052)841-9888
FAX(052)841-1015
E-mail: f-joho@aju-cil.com

暮らしに役立つ、ちょっとわくわくすることがある、そんな情報を贈ります。

平成22年4月13日(毎週火曜日)増刊AJU通巻9464号

昭和54年8月1日低料第三種郵便物認可

発行所 / 東海身体障害者団体定期刊行物発行協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター4F

AJU自立の家

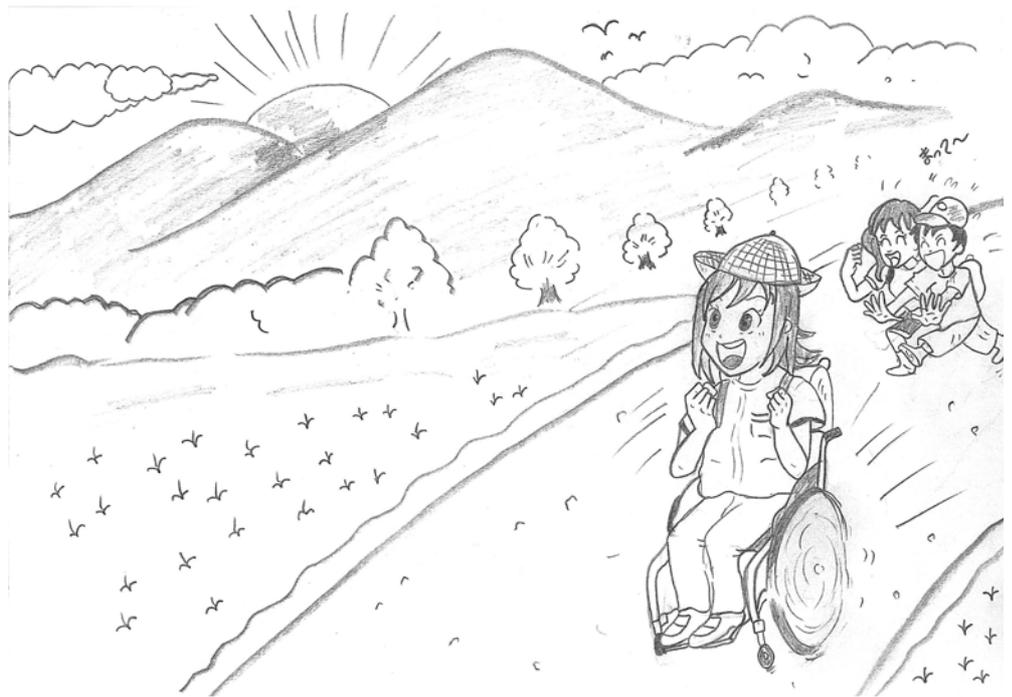
第105号

2010年4月20日号

定価250円

テーマ

チャレンジ
challenge
chance



絵 平良 隆志

はじめの一步をふみだしたあなたへ

進学おめでとう特集

『インクルーシブ教育

(ともに学び合うこと)を考えよう! ... 1

自分らしい生活って何?

当たり前の生活って何? 9

かつきのページ 18

旅の空から 19

トラベル情報 22

旭山動物園と富良野、小樽、札幌4日間の旅

新築! 完全バリアフリーホテルバリ島5日間

旅館 湯多利の里 伊那華にて

日帰り温泉+ランチバイキング

美濃・多治見日帰りバスツアー報告 他

福祉用具のリサイクル情報 25

いろいろ情報・お知らせ 26

読者アンケートへのご意見 part 1

第13回 国際福祉健康産業展

~ウェルフェア2010~

エレベータ未設置の地下鉄各駅の現状

他

付録 ノンステップバスでない路線

県民講座発表内容

「人まかせの人生やめた」



『インクルーシブ教育(ともに学び合うこと)』を考えよう!

みなさんこんにちは。でっちゃんです。春は芽吹き季節。クラス替えなどがあり、新しい友達ができ、毎日、新しい発見があるといいですね。そんな中、3月まで半田市にある特別支援学校の県立ひいらぎ養護学校に通っていた能美春紀くん(7つ)は、2年生になるこの新学期から、自宅に近い西尾市立寺津小学校に転入することになりました。春紀くんは知的障害と肢体不自由の重複障害があり、春紀くんのご両親は入学前にも地元の小学校への入学を望んだそうですが、養護学校へ通うよう勧められ1年間を過ごしたそうです。去る3月13日に西尾市総合福祉センターで行われた「お兄ちゃんと一緒にの学校にいきたい～春紀くんを寺津っ子に～」の集会にでっちゃんが参加してきました。今回は、春紀くんのご両親の思いと、転入するまでの経過を中心にインクルーシブ教育(ともに学び合うこと)を考えようと思います。

でっちゃん：脳性まひ(アトーゼ型)で不随意運動(自分の意志とは関係なく身体が動いてしまう等)があり、歩き始めたのは小学部2年の時(現在、移動は電動車いすを利用)、言語障害あり。小中高12年間、養護学校に通っていました。小学校に上がる前は、近所の子と姉と一緒によく遊んでいました。ところが、養護学校小学部に入学してから、ぜんぜん近所の子とは遊ばなくなり、家にいてテレビをみて過ごすようになりました。そして、地域の成人式には友達もいないので出席しませんでした。

いっぽのきっかけは...

昨年11月に名古屋の瑞穂区役所で「みんないっしょの学校へ」障害者権利条約批准・インクルーシブ教育推進ネットワーク愛知の集会がありました。基調報告として「各国の障害のある児童・生徒の教育制度を比較して見えてくること」をテーマに講師の一木玲子(愛知みずほ大学)さんなどが話されました。この集会



に私(でっちゃん)も参加していました。会場からいくつかの質問があり、その中に「子どもは奇声を出すし、コミュニケーションが取れないし、

じっとしてられません。普通学級で一緒にいる

のは難しく、特別支援学級に変わりたいとお願いをしています。イタリアでは、このような障害のある子が一緒に過ごせるようになっていますか?」というようなことを質問された方がいました。

講師の一木さんの答えは、「コミュニケーション、取れていますよね、お母さんと。それに小学校1年生はみんなじっとなんてできませんよね。今の教育では、普通学級で一緒に過ごすことが見えないかもしれないけれど、特別支援学級ではなく普通学級の方がいいと思います」



この質問をされた方が、西尾市で開かれた集会の当事者の春紀くんのお母さんだったそうです。

お母さんは入学前から、地域の学校の特別支援学級を求めてきましたが叶えられず、でも養護学校の1年生の半ばまで来て、どうしても地域の学校に行きたいと再度、要望されていました。「地域

要 望 書

貴職に置かれましては、「将来に希望をもち、自他の命を大切に、社会で役立つ人づくり」に向け、日々取り組まれていることに心より敬意を表します。

現在、愛知県立ひいらぎ養護学校小学部1年生(小学部1年)に在籍している能美春紀は、西尾市立寺津小学校(普通学級)への転校を希望しています。普通小学校希望は、就学前から貴教育委員会にお伝えしてきたものですが、私たちの希望が実現することなく、まもなく一年が経過ようとしています。

就学前、貴教委との話し合いのなかで教育課課長より、「今年は準備が間に合わず、西尾で春紀くんを見ることはできませんが、近いうちになんとかしたいと思っている。来年度は養護学校へお願いします」という話があり、その言葉を信じて「ひいらぎ養護学校」に入学しました。しかし入学後も何の動きもないままに時が過ぎていきました。

そして昨年12月8日に開かれた就学指導委員会では、「本人のために特別支援学校の継続が望ましい」という意見が、委員の方々全員一致の意見と伺いました。

このままでは、来年度もまた、「準備が間に合わないまま」一年をひいらぎ養護学校に通うこととなります。私たちは、これ以上、子どもを待たせることはできません。私たち親子が、就学前から希望していた西尾市立寺津小学校に通えるよう、養護学校からの転校手続きを進めて下さい。

「特別支援教育」は、親子の意思を無視して強制的に行なわれるものではなく、あくまで親の意志が尊重されるものと理解しています。私たち親子の意志は、西尾市立寺津小学校に通うことです。どうか、親子の気持ち、なにより子どもの気持ちを聞いていただき、新年度からは寺津小学校に通えるよう転校の手続きをお願いいたします。

記

1. 愛知県立ひいらぎ養護学校から、小学校(普通学級)への転校手続きを3月末までに進めて下さい。
2. 小学校への転校の際、保護者の付き添い及び特別支援学級への通級等を条件にすることなく、また担任の先生一人が過剰な負担を抱えることがないよう、学校全体で支援する体制を整えて下さい。

の学校で、特別なことは望まないから、みんなと一緒にいたい」という思いを抱え、勇気を出して集会で質問したようでした。この集会がきっかけで、名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会の代表の方と出会い、「特別支援学級ではなく普通学級こそ春紀が過ごす場である」と気づかれたそうです。また、「お母さんひとりでがんばらなくても大丈夫。私たちが一緒に応援をするから...」と会の方はいつてくれたそうです。

春への道のり

それから、名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会代表の方と一緒に愛知県教育委員会と西尾市教育委員会あてに要望書を作り、1月13日、提出しました。

お母さんは、就学前に「地元の学校にいきたい」と市教育委員会と話し合いをしました。市教育委員会からは、「まだ準備ができないから養護学校へ行ってください」といわれ、地域の小学校に受け入れ準備ができるまでの「一時的に通う学校」と双方が認識していました。そして、再び「地元の小学校の普通学級へ」と希望しました。しかし、今年もまた、就学指導委員会は「養護学校継続が望ましい」という判断を出しました。

1月20日に回答が...

西尾市教育委員会の回答

要望事項1及び2について

能美春紀君に対して、地元の小学校において適切な教育を実施するには、どのような教育環境を整えることが重要かを判断するために、保護者、当該学校、教育委員会、専門医等による十分な検討・協議をする必要があると考えます。

つきましては、上記のための期間をいただき、就学にむけての相談を重ねたいと考えます。

話し合いは、1時間にわたったそうです。教育長は、「何をしてあげることがいいのか?」「学校は何が問題なのか?」「私たちは経験がない」など...。学校も市教委も不安があるから、一日の学校

生活をする、試験的交流をして、普通学級でやっていけるか、お互いに検討したらどうか。という提案がありました。

そして、1月28日、再度市教委に話し合いに行きました。小学校の校長先生も教育長と一緒にみえました。

前回の20日の回答(話し合い)の後、教育長は部長・課長と共に、そして校長も別の日に、自ら養護学校に春紀くんの様子を見に行かれたようです。その上で、「本当に春紀くんにとって普通学級に行くことが幸せですか?」と再度、問われました。いくつかのやり取りの中で、春紀くんのお母さんは、気持ちが届かないことに涙し、お父さんも、入学前から希望をされていて、もう1年近く待っているのに、ちゃんと受け入れて欲しい抗議をしたそうです。

春紀くんの体験入学について、入学前提だと迫りましたが、結論はせず、教育長が「考えさせて欲しい」と言われ終了となりました。

「入学前提でなければ、体験はしないで4月1日から小学校に通います」と、ご両親は言い切っただけで帰ってきたそうです。しかし、帰ったあとに、学校や市教委が「不安」だと言う気持ちも冷静に考えればわかります。体験が確かに必要なのだと思われたそうです。

2月1日月曜日、小学校の校長先生からお母さんに「体験入学をして欲しい。その打ち合わせをしたい」と連絡がありました。



体験入学について話し合い

(以下、春紀くんのお母さんのコメントです。)

最初に、校長先生が「今の学校施設や職員でできる内容で、普通の授業や学校生活の体験をしてほしい」「(市教委を差し置いて)入学と言える立場にないが、何もわからないままに4月6日から来ることになるので不安なので、体験をお願いしたい」と言われました。

そして、校長先生が考えて作ったという「体験入学についての打ち合わせ」という2枚のプリントをいただきました。

「打ち合わせのプリント」には朝の登校から帰りの清掃まで、いろいろな項目がありました。

それを見ても、校長先生が主体となって体験入学を考えてくれていることが伝わってきました。

「授業のいろいろな場面では、実際に春紀くんの様子を見ながら進めていきましょう。お母さんは傍で観察して、教員が春紀くんに接し方が違うときなどに助言をして欲しい」と校長先生。

登校の仕方の確認や「体験」でも、その予定の日に授業に入っていない教員を配置し、昇降口で春紀くんの受け取り、授業でも教員が付くこと、教員が変わるときは春紀くんの前で変わらましようと言っていました。

「もし教員の手が空いていないときは、私たちも春紀くんにつきまますよ」と、校長先生と教頭先生が言ってくれました。「体験入学」でも「学校全体」で体勢を整えてくれようとしていました。

体験入学についての確認

- 小学校の1年1組の児童として、通常の学校生活を体験する。
- 現在の学校施設・職員でできうる範囲の体験とする。
- 保護者は常時、春紀君の様子を観察して欲しい。
- 必要なときには助言、援助をお願いします。

プリントには第1回体験とあり、「何回かいろいろな場面を体験してもらい、春紀くんにとっていいように一緒に考えましょう」と校長・教頭が揃って書いてくれました。

「ぐずったら廊下にでてでもいいですよ」と先生に話したら、寒いからと心配してくれました。

「保健室に何か敷いたら、ゆっくり休めるかしら」とか「オムツはとなりの空き教室にちょうどベッドがあるから使ってください」とか、実際に各場所をまわり、確認しました。

1年1組にも行きました。春紀の席(車いすの位置)を確認しました。1組のロッカーの上には、春紀が秋に養護学校から交流授業をしたときの春紀

から「ありがとう」と書いたカードが付いた“リース”があり、リースの真ん中には、春紀の笑顔の写りが貼ってありま



した。「リースの春紀」はずっと1組にいたのです。帰りに市教委に行きました。教育長には会えませんでした。課長が来てくれました。先日「体験入学」で行き違ってしまったことを謝りました。そして、今日の「体験」の打ち合わせの内容が、春紀を主体に丁寧に考えられていたことのお礼を言いました。課長は、学校の要望も聞いて市教委もなるべく対応したいと言ってくれました。

2月3日に、義務教育課と特別支援教育課から口頭読み上げにて回答がありました。

愛知県教育委員会の回答

就学先の決定については、市の教育委員会に委ねられている。現在、西尾市には保護者の方と話し合いをするように助言している。県としては、今後の経過を見守ると共に、子どもにとって不利益が生じないように、お互いが歩み寄りながら、条件を整理するなど、話し合いを進めてほしいと指導・助言している。

体験入学の様子

春紀くんは、4回の体験入学をしたそうです。

- 1回目 2月5日 登校から図工2時間
- 2回目 2月12日 国語、給食
- 3回目 2月17日 体育、音楽
- 4回目 3月3日 登校から下校まで(5時間授業)
(以下、春紀くんのお母さんのコメントです。)

1回目の体験

大泣きのデビュー。子どもたちのガヤガヤする声を聞いたり、担任の先生のみんに指導する声を聞いたりしていま



した。春紀に話し掛け、工作も手伝ってくれ、時々、子どもたちが、

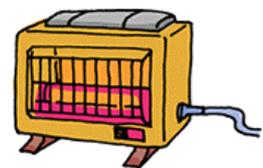
できた作品を見せに来てくれました。春紀は笑顔こそは見られませんでした。彼なりに楽しんでいたように思います。

2回目の体験入学

国語と給食です。国語の時間の最初は、みんなが立って、後ろの掲示板に書いてある詩を読みました。教室が子どもたちの声でいっぱいになりました。春紀は一番うしろの席なので、みんながうしろの掲示板に向くと、一番前になります。詩を読むみんなの音が降っているようでした。春紀は声に包まれていました。今回は、もう泣きませんでした。教室で、床に降りて自由に動くこともしました。

3回目の体験入学

体育はサッカーで、校務の先生が付いてくれました。先生は春紀の横にいて、いつも話しかけてくれていました。また、サッカーボールを触らせてくれ、春紀が「へへっ」と笑い、体験入学初めての笑顔でした！(*^_^*)。調子が良さそうに見えました。しかし、あまりの寒さに耐え切れず、春紀は泣き出しました。休憩室で休み、先生が、あらかじめ休憩室はストーブをつけて温めてくださっていて、春紀のことを心配してくださっていることに感謝。



体育の後は20分の長い放課でした。近所に住む子たちや他の子どもたくさん来て、縄跳びを跳んで見せてくれました。ある子が春紀を見て「あ！今、笑ったよ！」と言いました。その後も春紀は「へへっ」とよく笑いました。

音楽室は3階でした。

「放課のうちに春紀は先に音楽室へ行っていいでしょうか？」校長先生に伺うと、「いえ、みんな並んで教室移動しますので、一緒に行きましょう」と言ってくださいました。春紀は教務の先生に抱かれて音楽室へ行きました。春紀専用の重い机付き椅子は、校長先生が給食用のエレベーターを使

って運んでくださいました。後で説明がありましたが、給食用のエレベーターを使うことは、衛生面で課題が残るそうです。給食を作っている方たちがピリピリしていたそうです。「それでも何とかしなくちゃな」と校長先生。ありがたいです。

音楽は教頭先生が付いてくださいました。初めに歌を歌いました。

あくびがでるよ～… あ～あ～あ～あ～

元気一杯の弾けた声が音楽室中に響き渡りました。教頭先生が横で歌ってくれました。歌の後はピアノカをやりました。春紀はピアノカのマウスピースをガジガジ噛みながら、みんなの演奏に耳を傾けているようでした。「ふーってやるんだよ」と教頭先生が教えてくれました。今日は『ふーっ』とやりませんでした。偶然音が出たら、そこから吹けるようになるかもしれないな、と思いました。

4 回目の体験入学



春紀は、登校中から子どもたちのワイワイの声に包まれていました。

前回の登校では、子どもたちは口数少なく、黙々と歩いていたのですが、今日は子どもらしくくだらない(笑)話をして盛り上がりながら登校しました。なぜ、前回は黙々だったのか…、あっ！校長先生が見守りで付いて来ていたからだ！面白いものを見た気がしました。泣かずに到着。でも、眠りました。

朝の読書～朝の会は寝たり起きたりで、1時間目の算数はほとんど眠っていました。車いすで寝ていたの、教室にはいました。

2時間目は体育でした。初めてお会いする先生が付いていただき、整列の時も列から離れたところで見学するように春紀はいました。準備体操も何もすることなく、じっとその場にいました。担任がサッカーボールを持ってきて、春紀に渡しましたが、気に入らなかったの、積極的な反応をしませんでした。付いてくださった先生は、「じゃ、



なんにもすることないな」という感じで春紀の側に立っているだけでしたが、「あまり口を出してはいけないかな？」と私は様子を眺めていました。



サッカーのゲームが始っても、相変わらず、静止状態でしたので、「ボールを追いかける感じで動いていただけませんか。もちろん、安全な距離を計ってでかまいませんから…」とお願いしました。先生は戸惑いながら動いてくれました。20分の長い放課になりました。オムツを替えました。漏れてしまっていたので、ズボンも替えました。

3時間目は、音楽です。3階まで行かなければなりません。車いすは、特別に給食用のエレベーターで運ばれ、春紀は抱っこで移動しました。卒業式の歌の練習がほとんどでした。



4時間目は生活。大豆料理についての発表でした。春紀はペットボトルや小さなオモチャをかんざりしながら周りを時々気にしたり、声を聞いたりしていました。

給食準備中は、床に降りて自由にしました。数人、春紀のところへ寄ってきました。Kちゃんが「私と給食を食べよう」と言ってくれたので、先生に了解をとって、Kちゃんの隣で食べました。Kちゃんは春紀に向かって「おいしい？」と何度も聞いていました。これまで、私に話しかける子はいましたが、春紀に向かって話しかけるのは、Kちゃんが初めてでした。

給食を食べ終わったKちゃんが、他の子を連れてきて一緒に春紀の頭をいい子いい子していました。おそろおそろ触っている子も…。給食はたくさん食べました。パンを

一口サイズに切って置いておくと、春紀は自分で、手づかみで食べます。それを見た教頭先生は非常に驚いていました。そこまで驚かなくても...と少し思いました。

給食後、いつもは掃除ですが、水曜日は自由時間になります。春紀は運動場を私と一周しました。近所の女の子とお兄ちゃんの友達の女の子が一緒に歩いてくれました。「一周してきます」と私が言うと、教務の先生は「え？あ、行きますか？」と驚きを隠せない様子でした。春紀をみんなの前にさらすことにきっと驚いていたのだと思います。5時間目は国語でしたが、卒業生に送る手紙を作りました。最後7分くらい、春紀は車いすに座っていらなくなり、床に降りました。嬉しそうに「へへっ」と笑っていました。

全体的に、今日は春紀はペットボトルや小さなオモチャ（持参したもの）を噛んだりしながら、車いすですごしました。たまにキーッと耳に痛いくらいの声を出していましたが、だいたい、平穩に過ごせたように思います。

下校は近所の女の子4人と帰りました。春紀を知ってる子は、私もほっとします。そんな子が増えていってくれたらいいなと思いました。

4回の体験入学で最も印象的だったのは、子どもたちの声があるということでした。

図工の時「はるきくん、できた？」と聞いてくれた友達。「できたよ、見て見て」と作品を見せてくれた友達。国語の時間、詩を読むみんなの声は教室中に響き渡り、春紀に、降り注がれました。体育ではサッカーボールを蹴りながらはしゃぐ子どもたち。可愛くて元気な歌声。「一緒に給食を食べよ」と誘ってくれた友達。「どうやって食べるの？」と心配してくれた友達。鉛筆が床に落ちる音。先生の指導する声。なわとびを跳ぶ音。春紀と並んで歩く足音。そんなふつうの声や音に春紀は包まれ、全身で感じました。音楽室は広いので、私は少し離れたところから授業の様子を見ていました。私の目に映ったのは、春紀と一緒にいる1年1組の姿。春紀の向こうにある窓からは、青く

広い空が見えました。私は涙をこらえることができません。できないことは、たくさんあるけれど、そのままの春紀が、みんなと一緒にいる幸福感は、私の想像以上のことでした。私は、このふつうにある声や音、目には見えないけど、確かに漂う幸福感が、春紀の内側に響き、春紀がどのように成長をしていくのかを見てみたいと強く思いました。体験入学で先生方は、春紀のために考えてくださり、温かく接してくださいました。

校長先生は体験をするにあたって「寺津小学校1年1組の児童として、通常の学校生活を体験する」「保護者は春紀くん及び介助として付く教員を側で見守る観察者として参加する」ことを確認され、私たちの思いを汲み取っていただけたことに感動しました。校長先生はまた、授業中の春紀をよく見てくださいました。「みんなが歌っている時はよく聴いているようですね。歌声がなくなるとソワソワしていましたね」とおっしゃいました。

「5時間目の最後、春紀くんが床に降りた時、子どもたちの声がある中で春紀くんの笑い声が聞こえてきました。すごく嬉しかったです。ここが決して嫌な場所ではないんだな。と思いました」とおっしゃった教頭先生の笑顔は忘れられませんが、担任の先生は、毎回、先生の教材を春紀に貸してくださいました。また、教務、校務の先生はよく春紀に話しかけてくださり、音楽の先生や廊下ですれ違う先生方は、いつも、にこやかに挨拶してくださいました。休憩用の部屋に畳とストーブを用意してくださり、春紀も私も安心して、体験させていただけたことに感謝しています。

集会を開いて...

（以下、春紀くんのお母さんのコメントです。）

『お兄ちゃんと一緒に学校に行きたい～春紀くんを寺津っ子に～』を地元西尾で開きました。

片桐先生を東京からお招きし、「障害があるからこそ普通学級がいい」という題名で講演していただきました。ご自身の経験を交えたお話は楽しくもあり、興味深くもあり、何より説得力がありました。先生が子どもの側に立って考え、子どもた



ちとのやりとりを楽しんで
いらっしゃることが、よく
伝わってきました。私は、
地域に住む子どもたちと春
紀のやりとりをいくつか紹

介しながら、春紀が地元の学校の普通学級で学ぶ
ことの意義を伝えました。子どもたちは、生活全
般に介助を必要とする春紀と障害を持たない私た
ちと一緒にいることをおかしいことだと思わず、
ごく自然にそのままの春紀を受け入れているこ
と。そして、「能力に差があるから…」と分けて考
えようとしているのは大人だと気付かされたこ
と。春紀と子どもたちは育ち合っていること。そ
んなことをお話ししました。集会では他に、イン
クルーシブ教育について、障害者権利条約、国内
外の取り組みの話がありました。

集会には、寺津小学校の校長先生や市教委の方
が、「春紀くんに対して何ができるか考えるため
に」「保護者の気持ちをもっと知りたくて…」と、
足を運んでくださいました。



私の両親も、春紀を地元の学校へ通わせること
に、大変心配と不安がありました。集会に参加し
て、普通学級でふつうに過ごしてきた子どもた
ちの話や、国連の障害者権利条約批准に向けて政府
が動いている話を聞いたこと、それに春紀を応援
してくださる方がたくさんいることを知り、気持
ちに変化があったようです。

体験入学も、集会を開くことも、私たち家族だ
けでは到達できないことでした。「名古屋『障害
児・者』生活と教育を考える会」のみなさんの支

えがあって実現できました。「一緒にがんばろう」
と寄り添い、いつも春紀を真ん中において考えて
くださいました。深く感謝いたします。

春紀くんにもはるがきた!

3月24日、正式に回答をい
ただいたそうです。



3月定例会市議会の最終日で、
教育長は非常に忙しいところ
を、時間を割いて、小学校2年生に就学決定を、
直接、伝えてくださったそうです。

いろいろ話し合いをはじめて、ちょうど2か月。
校長先生の配慮で体験入学もし、この貴重な体
験を活かさなくてははいけません。

「なにかもかをはじめで、不安もあります。市
教委・学校も努力します。ご家族も春紀くんも努
力してください」「これからいろいろあるでしょ
う。そのときは、ぜひ顔を見て、こうして話し合
いましょう」と教育長。

4月には介助員が配置され、親の付き添いはあ
りません。また、オムツを替えたりする休憩室は、
教室に空きが無いため、保健室を改装する予定。
スロープなどは春休みの工事で整備され、給食用
のエレベーターは人も乗れるように要望が校長か
らでていて、夏休みか来年までにはできる見通し
だそうです。

市教委からは認定就学者として認めますと確認
書の案が提示され、毎月の教育相談や宿泊などの
行事に学校は、親に付き添いを求めることができ
るなどの文書に、署名捺印欄がありました。ご両親
は、この提案は了承できないという思いを伝え、
私たちはこれからも誠意を持って、市教委・学校
と話し合っ

ていく姿勢
であることを
伝え、了承されまし
た。



そして、ご両親は、「ひとつひとつ初めてのことになりますが、一步一步、先生方とそして子どもたちと進んでいきたいと思います」といっていました。

インクルーシブ教育 (ともに学び合うこと)について

by でっちゃん

私は、養護学校を否定するつもりはありません。ただ、今のところ多くの大人(教員も含めて)は、ちっちゃいときから、障害を持った人と接したことがなく、大人になってから、障害を持った人たちを理解しようとしても、とまどってしまうと思います。『知らない』から不安になる。当たり前のことです。また、障害当事者の親御さんたちもご自分のお子さんは「養護学校しかいけないんじゃないか?」と思っている方、「地域の学校で、みんなと一緒にいたい」という思いを抱えていても、なかなか一步を踏み出せないでいる方も多いと思います。

だから知ってもらうために一緒の学校に行く、ちっちゃいときから一緒にいれば、それが当たり前になる…。大切なことは、今の大人たち(行政、学校・親)が、何かをできるようにすることだけが教育だと思っている。それを180°変えないと障害を持った人の『学び』や『学校生活』、『地域での暮らし』は、自然体になっていかないと思います。そして、春紀くんは、集会がきっかけで名古屋『障害児・者』生活と教育を考える会の方をはじめ、多くの方の応援があって、転校が実現したように、これからも「お母さんがひとりでもがんばらなくても大丈夫」なように大人たちが、見守りながら、地域の子どもたちと友達になり、一緒の時間を過ごしていく。このことが何よりも一番大切だと思います。

《情報提供》

名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会
愛知「障害児・者」の高校進学を実現する会

代表 川本道代

ホームページ

<http://minnaissyoniharuyokoi.web.fc2.com/>



自分らしい **生活** って何？ 当たり前の **生活** って何？

去る2月6日、県民講座「地域で暮らすために～子の自立・親の自立～」(愛知県心身障害者コロニー主催)が開催され、地域生活を実践している障害当事者の生の声を聞くことができました。講座には、障害当事者のご家族の方や学校関係、療法士、医師・看護師、保健行政関係者など、70～80人ほどが参加しました。

発表したのは、AJU 自立の家体験室ワーキンググループのメンバーで、地域生活を始めたばかりの人や、10年以上になる人、地域へ出るための準備期間として福祉ホームを利用している人などさまざまです。施設や親元・家族との生活から、地域での生活を実現するための工夫や当事者の思いを、自分たちの体験談を交えながら、9名の方が話してくださいました。

このワーキンググループでは、体験室を経験し一人暮らしを実現した障害当事者が中心となって、自立生活のノウハウや経験を伝える活動をしています。公共交通機関の使い方を一緒に経験しながら覚えたり、ヘルパーへの介助依頼の様子を見てもらうなど、地域での一人暮らしのイメージづくりのお手伝いをしています。

そこで今回は、ワーキンググループの定例会にお邪魔し、メンバーの皆さんが自立生活を実現するまでのお話を聞かせていただきました。



定例会が始まった

定例会の開始時間が近づき、メンバーが続々と登場。若～い人からそれなり(?)の人まで、いろんな人たちがいました。総勢13名のワーキンググループですが、この日は、11名が集まりました。

《参加者》

	施設生活	福祉ホーム	地域生活
浅野 誠一	21年	5年	11年
石川 直希	15年	4年	2年10ヶ月
井上 洋一	27年	4年	6年
江上佐和子	27年	5年	11年
片桐 敬子	28年	4年	2年
佐々木克己	-	4年	12年
杉山 祐司	-	4年	11ヶ月
杉本 ^{まさみ} 真規	12年	10ヶ月	-
福井 雅子	16年	3ヶ月半	-

森 美親・浅井貴代子...AJU自立の家職員



浅井:2月6日のコロニー主催の県民講座、お疲れさまでした。地域移行を実現した人や途中の人にしても、施設職員や職場の人たちに、地域移行は難しいだろうといわれていた人たちが、あの場で話をしたということは、とても大きな意義があったと思います。あそこに並んだメンバーの殆どは、自立は無理だと専門職の人から見ると評価されると思う。いつも浅野さんの名前を出して申し訳ないけれど、福祉ホームサマリアハウス(以下、サマリア)に入っているときに、子どもの頃にいたコロニーの園長先生に会

ったとき、「とても、一人暮らしはできるとは思っていなかった。できるんだ。」と驚いていた。でも、何でこの程度のことで驚くのか、私には分からなかった。機会と経験の場がありさえすれば、その人なりのかたちの「できる」はいっぱい作れるはずだと。みんなも多分、「できる」「したい」ということを出せないままで、施設の中で何十年と暮らしたというのは本当に大変だったと思う。生の姿を、専門職やそういう仕事をしている人、学校関係者が知っていくということはとても大事なことで、私一人が自立についてしゃべるより、ずっと何十倍も効果があった。話し方や伝えた内容は、それぞれいろいろだったけど、「すごかった」という感想をたくさん聞きました。みんなが力を出していく、そして、自分にだけでなく他の人に対してどうやって力を出していくかということが、これからも大切なことだと思います。「難しいよね」「無理だよね」「危ないよね」「ダメだよ」と言われることが多いけれど、実現してきたみんなの力に優るものはないと思います。

自立生活を始めるきっかけは？

県民講座の振り返りが終わり、座談会が始まりました。

編集部:自立生活を始めようと思ったきっかけを一人ずつ教えてください。

杉山:家から出たいから。それと、一度、自分で生活がやりたいから。



石川：ここに来る前に、学校の先生から、「お前学校出たらどうする？」と言われて、「施設暮らしがイヤだとは思わない」と先生に言ったら、「そんなじゃダメだ、お前はAJUに行つてこい」と言われて、無理矢理行かされました。AJU自立の家（以下、AJU）の初めの印象は、「僕と同じ障害を持っている人が、ボランティアの人を使って一人暮らしをしているなんてすごいな。でも、僕には無理だな。」と思いました。施設だと職員が先回りしてやってくれるし、一度も外に出たことがないし、無理だなと思った。

高校3年の夏休み、夏季自立体験プログラムに、最初はイヤだな...と思いながら参加しました。初めは何をしたらいいのか全然分からずにエレベータの前でぼーっとしていると、浅井さんから、「ここは、何も言わんかったらほっとかれるよ」と言われて、その言葉で心の扉が開いたような感じがした。



サマリアの実習が終わって施設に帰ってみると、なんだか物足りない感じが湧いてきた。実習の間、外でご飯を食べたり、自分の生活を初めて知ったので、一人暮らしがいいなと思いました。

浅井：思い出してきた。じっとしてたね、7年前。
杉本：私は、ここに来る前は、小学校から高校までずっと施設で生活していたので、小学校の頃までは施設の中で友達と遊ぶことなどがすごく好きで、それで満足していた。

中学・高校になると、外に買い物に行ったり、友達と遊ぶにしても、外で何かしたいと思うようになったけど、規則で職員が付かずに出すことは駄目だった。規則で決まっていたから、だんだん窮屈になってきて、自由が欲しいと思った。実家に帰ったときも、親に合わせて、親の都合で外出したり動いていた。高校に入ってからですが、自分で決めることがなくて、自分で決めて生活したいと思っていたときに、体験室を利用した養護学校の先輩が、ここでの体験の話をしてくれました。AJUを知って、行ってみたいと思いました。自分のできること、できないこと、どこまでが本当にできることで、できないことって本当にあるのかな？試したこともないことが多いのに、決めちゃってもいいのかなと思って、それが分かるだけでもいいと思って、体験したいと思ったのが始まりで、体験室や夏季体験プログラムの利用に繋がった。体験していくうちに、サマリアに入って力を付けたいと思って、入居希望を出しました。

浅野：僕は、2つの施設にいたのですが、自由がないからどうにかしたいと思っていた頃、新聞で自立の家ができることを知った。駄目かもしれないけど1回やってみようと思って、体験室に申し込んで面接を受けたら、直接サマリアに入った方がいいと言われました。

浅井：新聞記事を見たんだね。施設で新聞見てたんだ。自分で取っていたの？

浅野：はい、自分で。

浅井：新聞取ってる入居者なんて、そうおらへんに。

佐々木：自分の場合、昔過ぎて思い出すのに時間



がかかるんだけど…。ミスタードーナツのアメリカ研修でA J Uの人たちと会ったのが一つのきっかけ。その後、東京（実家）に戻った。アメリカで好き勝手やっていたので、窮屈になってきて物足りないなというのがありました。でも、親からは、ただ物足りないというだけで一人暮らしは承知してくれそうもなかったの、名古屋で仕事するからと言って強引に。それでも反対されたけど、説得はあきらめて無理矢理出て来て、今に至っている。



それで強引に。それでも反対されたけど、説得はあきらめて無理矢理出て来て、今に至っている。

浅井：家出みたいなもの？あのアメリカの自由を知ったらねえ。親は、そんなに反対したの？アメリカは反対しなかったの？

佐々木：アメリカは10ヶ月と期間が決まっていたから。できるわけないと思われていたし。

浅井：アメリカでやってきても反対したの？

佐々木：アメリカでは、仕事をしていただけではないから。そこまですると言っても信じてくれなくて、無理に説得しようとしてもけんかになるだけだから、無理矢理出てきちゃった。

浅井：親の説得ほど難しいものはない。

（「確かに…」みんな大きくなずく）

佐々木：今も昔も壁ですね。

浅井：自立の最後の壁は親。ほら、同意している人がいっぱいいるよ。

井上：僕は15年前に、当時いた施設の職員や施設に出入りしていた車いす業者の営業の人が、A J Uのボランティアをやっていて、名古屋にはこういう所があるということを知ったのがきっかけ。僕ともう一人施設にいた友達が話を聞いていて、見学に行こうということになった。僕より友達の方が先に体験室をやって、施設に帰って色々話を

聞いているうちに、自分もやりたくなった。A J Uにまず見学に来て、確かその日のうちに、面接を受けたような気がする。最初は、1週間だけ体験室に入ったんですけど。また、浅井さんを出して申し訳ないんですけど…。最初に体験室に来たとき、歩道から落ちて転んで、目の上を怪我してしまった。怪我した日は、ボランティアさんに病院に連れて行ってもらったんですけど、次の日、ちょうど人がいないと聞いて、浅井さんに、どこに相談したらいいか聞いたら、「一人で行ってらっしゃい」と言われました。最初は本当に自分一人で行くのかと思ったけど、とりあえずそうと言われて、一人で行きました。病院の受付でやり方を聞いて、外科まで行って、処置をしてもらって帰ってきた。



体験室の日が終わって、家に帰って、施設の生活と体験室の生活を比べたときに、やっぱり、こんなところで一生を終えていいものかな？という気持ちになって、2回目の体験室に申し込んだ。2週間やってみて、自分でも介助者さえ確保できれば、自立生活が可能だということを知って、そこから、家族とのバトルが始まりました。最終的には、親子の縁を切る一歩手前までいったけど、まあ、なんとか施設職員とか義理の兄が親を説得してくれて、サマリアに入って、現在に至ります。

片桐：施設にいたワープロ仲間で、時々しゃべったりしていた人がいて、その人がサマリアに入るようになった。話には聞いていて、

そんな所があるんだと思って聞きながら、私も行きたいなあと考えた。それが、私がサマリアを知ったきっかけです。

そのときの担当の指導員や親に、私が興味があるから連れて行って欲しいと言ったら了解してくれました。遊びに連れて行ってくれた人に肩を押されて、来ることになったのが始まりです。初めの1週間がすごく充実していて、来たいと思った。

福井: 私は、同じ年の親御さんにAJUという所があると聞いたのが最初のきっかけです。高校2年の時に、自立体験プログラムを体験して、初めてどんな所かということを知って、高校3年生の時には、別で就労体験が何かで実習に来て、一人暮らしがしたいというのもあったので、高校を卒業したらここに来ようかなと思い始めたのがきっかけです。

江上: AJUに来る前に27年間施設にいました。規則だらけの生活ではなくて、自分の生活ができないか、365日、何人もの人たちが同じ生活をするのはおかしいと思っていた。東海車いす市民集会で山田さんとか、AJUの人たちに出会う機会があった。夜、交流会のときに友達とわーわー言って、すごく楽しかった。山田さんが来て、「どこから来たの?」と聞いてくれて、「僕は、AJUを作って施設にいる人達に、家出を勧めている」と言った。その一言がすごく印象に残っていて、名古屋に遊びに来たり、体験室も1週間利用して、今の何もやらないままよりは、AJUに来たら何か変わるんじゃないかなあと。そういう気持ちがありました。それがきっかけ



で、16年名古屋で暮らしています。

周りの人の理解

編集部: さっき、佐々木さんは無理矢理出てきたっていったけど、他の人は、どうして出てこなかったのかな? また、どうやって親とか施設の職員を説得したのかな?

杉山: 僕は、親は反対だったので、AJUの人に説得してもらって、家を出ました。

石川: 僕は、反対されていません。

杉本: 母は、「行っておいで、自分の力を試しておいで」と応援してくれた。父は、心配だったみたいだけど、このまま私自身が自由じゃない、自分が一体どこまでできるかも知らない状態がすごく嫌だから、駄目でも試してみたい。くじけて帰ってくるかもしれないけど、1回は試してみたいとずっと言っていたら、そこまで言うなら行ってこいと。ずっと言い続けていました。

浅野: 僕は、昔から親と関係がよなくて、1つ目の施設を出るときに反対されたけど、施設から一筆書くように言われ、一筆書いて、無理矢理に出てきました。2つ目の施設から、サマリアに入るときは、親に連絡はしたけど、何にも返事がなくて、無視をしてきました。



浅井: とてもシビアな話。一筆って、何書いたの? 2度と戻ってこないとか? 大変だったね。

浅野: 『何があっても、自分の責任でやります。』と書かされた。でも、何かあったら対応するとは言われたけれど...

杉本: 施設というより、人間がだめ。おかしい。

浅井: そういうことを施設が平気で言っちゃう。

杉本: お前が言われたらどうなんやと逆に言ってやりたい。

佐々木: 施設職員にそういう感受性がないから

...

井上：僕は義理のお兄さんの説得。最初は、親も反対してたけど、サマリアに入っているのを見て安心したのか、徐々に理解を持ってくれるようになった。今の家に引っ越すときには、敷金礼金とか、住宅改造の一部まで援助してくれるようになった。

浅井：サマリアに来るときは反対。最後には、ここを出るときには、ここでやっていることを見聞きして安心したんだね。

佐々木：うちの親もそう。時間はかかるけど、時間が解決するかな。

片桐：反対はあったけど、施設を変わって、施設からいろんな所に行って、経験を積みといたけれど、分からずに時が過ぎました。期限がある施設だったから出なきゃいけないくて、行く所がここ以外にはなかった。職員と親に頼んで、入れてもらいました。

福井：母親より父親が昔の考え方が強くて、それまで施設で育ってきたから、このまま施設でいいんじゃないのと、母が言われ続けて



いました。私がやりたいということを伝えてくれていたけど、父は納得してくれなかった。最終的に、父は納得してくれなかったけど、母は応援してくれて、浅井さんや森さんにも話をしてもらいながら、自分がやりたい

と思ったんだったらやればいいんじゃないのかということを書いてもらえたので、サマリアに入ることになりました。

江上：施設の職員さんたちはそんなに反対はしなかった。親は結構年だったから、考え方を変えるというのは難しいだろうなと思っていた。私もそんなに若くなかったから、早く楽しい生活をしたいと考えていた。親は

ずっと私が死ぬまで元気でいられるわけではない。私は私の人生だから自分で決めたいと、ごり押しに施設を出て来た。

浅井：40年くらい前、山田さんが希全寮で規則違反をやったときに「出て行け」といわれて、同じ施設にいた友人と2人で、「障害者に出てけと言ったら死ぬと言っていることと同じだけどいいのか？」と言い返して、喧嘩したことがあると言っていた。その時代に、行くところもないし、今みたいにバリアフリーだったらどこへでも行けるけど。

施設の生活と今の生活

編集部：最後に、1つだけ聞きたい。施設にいたときと今とで何が違いますか。一言で教えて下さい。

石川：生きてる感じがする。

杉本：自分が生き生きしている、輝いている感じがする。

浅野：自分で決めて生活しているという感じがする。

佐々木：僕は施設じゃないけど、良いことも悪いことも、全部自分の責任だなって感じ。

井上：施設では、生かされていると思ったけど、今は、自分で生きているんだなということを感じている。

片桐：花嫁修業！（この日一番の嬉しそうな顔）



福井：自信に繋がる。

江上：施設は朝から晩までいろんなことが決まっっていて、お風呂もトイレの時間も決められ

てしまう。今は、自分で決めた時間で行動できるし、自分でやりたいことは介助者に伝えてやってもらえば、何でもできる。人の関係はいろいろ難しいけど、当たり前前の生活ができることが嬉しい。

浅井: みんな、いつも体験室のワーキンググループをやっている、この生々しい声を、どう伝えていったらいいか…。みんなそれぞれ自分の生活を始めたとか、始めたばかりの人とかいるし、地域での生活をしている。そして、その先には老後がある。これだけはどうすることもできない。人生、どうすることもできない誰にでもあること。その一方で、制度の地域格差、本当にびっくりするような話が山のようにある。

某〇市は、彼女が来たから、支援センターと市役所と一緒にここに来た。その時の質問が、「サマリアに入ったから、自立生活の訓練をしているから、ヘルパーを使う時間が短くなるんですよね？自立を目指して自立生活のためにここに来ているのだから、ヘルパーの支給時間は短くなるんですよね。」、もう一つは、「ホームを出たらみんな、家に帰るんですか？」と。福祉ホームの4年間が終わったら実家に帰るのかと聞くから、「だれが不自由なバリアだらけの家に帰るか！」と。自立の家が始まった頃には、正月やお盆はみんな実家に帰っていた。でも結局実家に帰れば寝たきりの生活、畳の上でじっとしている生活になる。車いすに乗れば一人で生活できるという自由をみんな知っている。介助者もいるので、やりたいときにやりたいことができる。実家に帰ればそんな生活はない。少なくとも物理的に。あなたの家はバリアフリー？

杉本: 全然違う。

浅井: 「重度の障害者が自立生活できるの？」「仕事なんかできるの？」という。もちろん、サービス自体も少ないけど、それ以上に役

所の窓口にいる人の感覚。障害の概念や自立の概念を全然分かっていない。結局、「自立生活 = 一人で自分でできるようになること」としか思っていない。そういう意味では、これから地域へ出て行こうとする人たち、始めようとしている人たちのこと、自分より障害の重い人たちや、これから「はじめの一步」の人たちに、もっと自分たちが役に立てるように活動していこうね。



2時間に及ぶ座談会でしたが、あっという間に時間が過ぎてしまいました。自分らしい、当たり前前の生活を手に入れた人や、それを目指してサマリアで準備中の人の、現在に至るまでの話を聞かせていただきました。みんなが最後の質問に答えているときに、この日の中で一番生き生きとした表情だったことが、とても印象的でした。

発言の中にあるような、自分の力を知る機会さえも与えられないでいる人たちが、まだまだたくさんいます。自分の生活でありながら、周りの都合に合わせ、食事やお風呂、トイレの時間さえも決められてしまう生活とは、一体何なのでしょう。やってみたくいことがあっても、規則にしばられ、無理だと決められ、「やってみたくい」と言えない生活とは一体…。

決して、全てを自分の力だけで、一人でやるのではなく、人の力や社会資源を使いながら、自分なりの生活を組み立てることを知る。「できない」のではなく、「できる」ようにするために、何が必要なかを考える。それは、障害当事者だけで

なく、本人を取り巻く家族や学校関係者、施設関係者、社会...いろいろな人たちにとっても、大切なことだと思います。

このワーキンググループの人たちは、周りの都合によってつくられる生活を経験してきたからこそ、自分でつくる“当たり前”の生活が、いかに当たり前であるかを実感しているのだと思います。そして、“当たり前”の感覚を一人でも多くの人に感じてもらうために活動を続けているのでしょ。

みなさんも、はじめの一步でも半歩でもふみだしてみませんか？

お問い合わせ

社会福祉法人A J U自立の家 サマリアハウス
身体障害者自立生活体験事業係

〒466-0037

名古屋市昭和区恵方町2 - 15

TEL (052) 841-5554

FAX (052) 841-2221

E-mail: taikensitu@aju-cil.com



県民講座での発表内容は、付録「人まかせの人生やめた」をご覧ください。

片桐 敬子

施設職員から「自立は絶対に無理だわ」と言
ってほしくなかった。
自分のできることとできないことの見極め。

今は、ヘルパーに料理を作ってもらうのが一
番楽しみです。
地域生活をやってみるといいと思います。

杉山 祐司

江上佐和子

十把一絡げの生活じゃなく、一人の大人として
一人ひとり違う時間の使い方がしたかった。
出会った人たちと対等になれる関係

佐々木克己

親には親の人生があるし、子どもには子どもの人生があります。
お子さんの力を信じてあげてください。

同室だった先輩が福祉ホームでの生活を経て地域で生活をしている事を聞いた。
自分で考えて生活する事は楽しいし、生きがい。

福井 雅子

浅野 誠一

「もっと自由な施設にかわりたい」という希望から6年待たされ、なぜみんなに内緒に？
入居者の地域移行に努力してほしい。

制度など、卒業後に必要な勉強を。
クラスみんなで考えて先生はただ見守ってください。

石川 直希

内海千恵子

「今まで私たちがやっていたことと何も変わらないんだよね」という友だちからの言葉。
同じ場で、同じものを共有する。

自由になって、いろいろなことをしてみたい。
自由に『できる』っていうことを知った。経験不足って、本当に怖い。

杉本 まさみ 真規

浅井貴代子

その人がその人らしく生きていけるような支援。
自分流に何ができるかという事を知る、そのチャンスの場合。

唱歌校門を出ず

堤 剋喜

中学校の年間行事に秋の合唱祭というのがあった。学年ごとのクラス対抗。音楽の授業の一環で、練習を含めて全員に参加する義務がある。「3年生まで使うから進級するときに捨てたりしないこと」との注意付きで、4月にもらった合唱曲集は副教材にしては厚みがあり、50曲以上載っていた。「今から何曲か候補を弾くから、いいと思うものに手を挙げなさい。」弾きながら歌ってくれるわけではない。本当に弾くだけだった。ピアノ伴奏の一部と本だけで歌を選べというのはどんなものか。民主主義のひな形として、何を歌うかはみんなで決めた形にしておく必要がある。けれど、全部レコードで聴いて選ぶと時間がかかりすぎる。今は鑑賞の時間ではない。歌う練習に早くすすみたい。生徒の想像力を信頼して、時間短縮を。学校行事を指導する側の言い分としてはこんなところだろうか。音楽の先生がピアノ科の出身だったせいもありそうだ。歌声抜きで歌を選ぶ。普段やらない高等な要求。どの歌に手を挙げたのかは忘れたが、「モルダウ」も候補に挙がっていて、自分が選ばなかったことだけ覚えている。



次の年の秋、教育実習生が来る頃に『ホロコースト』という長時間ドラマがあった。民放が番組改編期の特別番組用に輸入したもの。メインのBGMは合唱だった。1週間毎晩観ていたし、コマーシャルの前後にも流れていたから、相当な回数、聞いていたことになる。歌詞はわからないまま、メロディーだけはすり込まれてしまったらしい。(物好きで、『主要国国歌集』を買ってきた。偶然だろうが、演奏はチェコ・スロバキア軍楽隊。故に国歌集ながら、歌声は収録されていなかった。主要国の中に台湾は入っていたが、パレスチナは外されていた。ともかく聞いてみたおかげで、『ホロコースト』のBGMはイスラエルの国歌だったんだ、と確かめることができた。テレビで放送されてから3年経っていた。僕は知らずに聞いていたけれども、放送局は知った上で放送してるのだから、物議を醸しそうな選曲だと今は思う。)

だいたい同じ頃に、「交響詩モルダウ」を聞くようになった。「合唱曲モルダウ」のもとになった管弦楽曲である。はじめから、ツボにはまったという感じだった。手持ちの音源が今よりずっと少なかったから、繰り返し聞いたとか、有名な曲だから、というのではない。気に入ったからというか、波長が合うとか、自分との相性がいいと感じるから、繰り返し聴けるのだと思う。ただ「交響詩モルダウ」に限ると、僕の方に下地ができていたようだ。『ホロコースト』のBGM。その刷り込みの音感に対する効果である。

3度目の合唱祭で「合唱曲モルダウ」を聞く機会があった。1年生のクラスの演目だった。少しショックを受けた。モルダウにしては軽すぎるよ！歌わされている素人と、プロのオーケストラを比べても仕方ないし、中学生、特に1年生のクラスに混声4部合唱を課すのは酷だ。声変わりの頃だ。本来は高い声なのに、声変わりが早かったために低音部に回される子が出る。がんばっても低音が負けて、全体が軽く聞こえてしまう。

どこかの業界用語に「唱歌校門を出ず」というのがあるそうだ。学校で習った歌はつまらなくて、学校を出たら、自然と口ずさむ子はいない、の意。この言葉、僕に当てはまる。中学校の合唱祭には3回出た。3曲歌わされたはずなのに、題名を思い出せたのは1曲しかない。

旅の空から

皆さん、こんにちは。いつも旅行情報を掲載していただいている(株)チクトラベルセンターの松本です。暖かくなってくると外出の機会も増えて、「旅行に行きたいなあ」という方も多いことでしょうね。

今回は国内旅行でポピュラーな九州についての情報をお届けいたします。



新幹線か飛行機か

九州新幹線は全線開通までまだ当分かかりそうですが、やはり飛行機でひとつ飛びして時間を有効に使いたいのが九州の旅です。九州は特徴のある観光地が多いところ。それと食べ物にもおいしい名物が多くて、食いしん坊の方にはたまらない場所です。福岡には新幹線という手もありますが、その他の都市には飛行機でアクセスしたほうが短時間で移動ができるでしょう。

温泉宿でのんびり派

観光より温泉でのんびりしたい人には、大分県の由布院や別府、そして鹿児島、宮崎などをお勧めします。

個人的にお勧めしたいのは鹿児島の指宿(いぶすき)です。テレビでもよく紹介されている砂蒸



し体験ができるホテルが多いのです。専用の浴衣で砂蒸しをして砂だらけになった浴衣ごと温泉で砂を落とし、また乾いた浴衣に

着替えます。ホテルによっては車いすで砂蒸しのすぐ横に行けて、スコップで砂をかけてくれる兄ちゃんが抱えて車いすから降ろしてくれます。



鹿児島県 開聞岳

色気より食い気

明太子、とんこつラーメン、長崎ちゃんぽん、さつま揚げなどなど、九州はどこに行っても食べ物には特徴がありどれも試してみたいものばかりです。温泉旅館は各地の名物を取り入れた豪華な料理を提供していますのでそれだけで幸せな気分になれる。私がお勧めするのは観光タクシーの運転手さんお勧めのレストランに連れて行ってもらうことです。

地元を知り尽くした運転手さんならではのB級グルメもきっとおいしいはず。地元の観光地を訪れる際には、運転手さんならではのB級グルメもぜひ試してみてください。



効率よく観光するには

新聞や折込広告にあるツアーは、最小催行人数が25名や30名というものが多く、このツアーに参加すると時間に追われてゆっくり観光できない可能性があります。

そこでお勧めするのは、航空券とホテルだけをセットしたものを購入して、あとは観光タクシーで回る方法です。観光タクシーは普通のタクシーから、8名まで乗れるジャンボタクシー、車いすのまま乗車が可能な福祉車両など、いろんなタイプがあり使い分けができます。自分たちだけでタクシーを貸切にするので自由なコースが組めることに加えて、時間もある程度自由が利きます。運転手さんと仲良くなれば、普段は立ち寄らない穴場を教えてもらえることもあります。

ここで注意が必要なことは、観光タクシーと駅などにいる通常タクシーの違いです。観光タクシーにはタクシー会社で研修を受けた観光案内ができる運転手さんが担当します。これに対して、通常タクシーは道はわかっているが案内まではできない運転手さんや、観光客に対しての接客態度が悪い人もいます。

単なる移動だけなら通常タクシーでも構いませんが、観光を目的で利用するときは気をつけましょう。

ホテル選びのコツ

膨大な量のホテルから、自分に合ったホテルを選ぶにはどうしたら一番間違いがないでしょうか？

目的をはっきりさせてから、ホテル探しをなさると良いでしょう。一例を挙げますと、宮崎観光に行く人が日南海岸をドライブして眺めの良いホテルに宿泊なさるとしましょう。ホテルは使いやすさを優先なさるなら、温泉よりは設備の整ったシェラトンホテルをお勧めしています。宮崎市内から近く、眺めは最高のホテルです。また電動で背中が起き上がるベッドも設備があります。

温泉入浴に関しては、大浴場を売り物にしているホテルが多いため、使い勝手はそれほど良くありませんが、介助の方が同行なさるときには使い

やすい温泉大浴場があります。個人的にお勧めしたいところとしては霧島温泉です。山の中の温泉ですが、雰囲気がよくてなかなかのものです。観光名所として、えびの高原をドライブするのが良いでしょう。途中で休憩場所にちょうど良いレストランがありますが、ちゃんと身障者用お手洗いも設備されています。また霧島神宮は巨木に囲まれた雰囲気のでぜひ立ち寄っていただきたいところです。ここは通常自動車は下の駐車場に入れて、長い階段でアクセスするのですが、リフト付きの福祉車両を使っている場合は別です。消防車が通るための特別な道を使うことが可能なのです。神社のすぐ横までアクセスできてとても便利です。





何年か前にえびの高原をリフト付きタクシーを3台で走っていたとき、目の前で乗用車が道をそれて土手に落ちひっくり返ってしまいました。いくらなんでもほっておけないためタクシーを停車させて救出しました。幸いにもシートベルトを締めていらっしやったので、無事でした。ひっくり返った車はタイヤが上になった状態で、気が動転している運転手さんに「エンジンを止めて」と指示を出して車から全員を引っ張り出しました。後部座席は高齢のご夫婦でしたが怪我もなく脱出できました。

運転手さんは携帯でどこかに電話しようとしていましたが、手が震えてボタンが押せないで私が変わりに携帯を受け取って電話をしました。相手はなんと宮崎県警に勤務する息子さんでした。高原の何もないところでしたので、昼食予約をしていた途中のレストランまで私たちのタクシーに分乗してもらい、息子さんに居場所を連絡してレッカー車の手配などをお願いしました。

1ヶ月くらいして、私の会社に1通のハガキが届き、事故のときのお礼が書かれていました。たしか名前も会社も一切言わなかったはずなのに、どうやって調べられたのか？きっと宮崎県警に勤務なさる息子さんが<指名手配>で調べられたのでしょうね。びっくりしました。

皆様も旅先でドライブするのは楽しい反面、事故には充分注意しましょう。

観光庁長官登録旅行業第735号
(株)チックトラベルセンター

ハートTOハート事業部

松本 泰守(まつもと やすもり)

ハートTOハートを担当して14年目

〒460-0003

名古屋市中区錦1-20-19 名神ビル6F

TEL(052)222-7611

FAX(052)212-2778

matsu@tictravel.co.jp

チケットラベル ハートTOハート**初夏のアラスカ8日間**

新緑の季節のアラスカは野生動物が見られるチャンスです。北極に近いこの地域は太陽がなかなか沈まない不思議な光景を体験できます。

期 間：6月8日(火)～15日(火)
料 金：ひとり498,000円(2名1室)
出発地：成田・名古屋・関空・岡山・福岡
ポイント：添乗員同行・一部リフトバス

**ハワイの福祉サポートを学べる
ホノルル6日間**

観光だけでなく、有名なグループホームで福祉サポートを学べるツアーです。もちろんリフト付き観光バスを利用して車椅子ご利用の方も安心です。自由時間もあり、カラカウア通りに面した便利なホテルでショッピングも楽しめます。

期 間：6月21日(月)～26日(土)
料 金：ひとり200,000円(2名1室)
出発地：中部空港
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用
 ・電動車椅子参加可能

**爽やかなカナディアンロッキーと
バンクーバー7日間**

夏のロッキーは野生動物を見かけるチャンス。氷河観光はリフト付き雪上車でめぐります。バンクーバーは世界一暮らしやすくバリアフリーも整備された街。パラリンピックの開催で一段と整備された街歩きも魅力です。

期 間：7月7日(水)～13日(火)
料 金：ひと355,000円(2名1室)
出発地：成田・名古屋・関空
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用
 ・電動車椅子参加可能

**旭山動物園と富良野、小樽、札幌
4日間の旅**

梅雨の心配がない北海道で初夏を楽しみましょう。ホテルはデラックスな使いやすいお部屋です。富良野のラベンダー畑やパッチワークの丘、旭山動物園と人気のポイントを入れて小樽やノーザンホース牧場もお楽しみいただけます。札幌では連泊で体にも優しいコース。もちろんリフト付きバスを利用いたします。

期 間：6月27日(日)～30日(水)
料 金：ひとり148,000円(2名1室)
出発地：名古屋
ポイント：添乗員同行・リフトバス利用
 ・電動車椅子参加可能

**< 2名から行ける海外旅行 >
新築！完全バリアフリーホテル
バリ島5日間**

サポート万全のシンガポール航空で行くバリ島個人ツアー。デンパサール空港からホテルまでは最新のリフト付きワゴン車で送迎いたします。(車椅子は2台まで固定可能)
 ホテルは完全バリアフリー設備、シャワーキャリーや入浴設備も整っています。ホテルのプールには専用の車椅子でアクセスできるスロープもあり海を眺めながらプールでひと泳ぎ！そしてホテルは1日3食付きで、スタッフはリハビリ研修も受けた人たちが常駐しています。

期 間：5/6～7/14の間に出発
 7/19～7/23の間に出発
 8/28～9/16の間に出発
料 金：ひとり138,000円(2名1室)
 往復航空運賃+ホテル宿泊代金(1日3食付)
 +空港 ホテル間リフト車両での送迎
 (空港利用税等は別途必要です)

申し込み・問い合わせ

観光庁長官登録旅行業第735号
 (株)チケットラベルセンター ハートTOハート

〒460-0003 名古屋市中区錦1-20-19 名神ビル6F
 TEL:052-222-7611 FAX:052-212-2778
 【月～金 09:30-18:30 土日祝休】
<http://www.tictravel.co.jp>
 【担当】松本：matsu@tictravel.co.jp

こちらから何う旅行会社「トラベルパレット」



大型バスで行く

のんびり！ゆったり！昼神温泉 日帰りバスツアー

旅館 湯多利の里 伊那華にて 日帰り温泉＋ランチバイキング

前回号でも掲載したツアーですが、お客様のご要望を反映し、一部内容が変更になりました。

- ❖ 和・洋・中・信州の美味しいもの約50種類のバイキング
- ❖ 自慢の20種類の温泉・足湯ゾーンもあります。
- ❖ 宿場町、妻籠に立寄り

🌸 15名様より催行 🌸

日時

平成22年6月2日(水)

名古屋本陣9時出発

集合場所

名古屋市内(詳細は検討中) 8:00 出発

東浦森岡 8:45 出発

行程

名古屋8:00 東浦8:45 昼神温泉(昼食・温泉) 11:00 妻籠散策 15:00 名古屋 17:00 東浦18:00

料金

7,600円

(昼食・温泉・傷害保険・往復交通費込み)

車椅子の方

10,300円

トラベルパレット介助スタッフ付添い必要な方

17,300円

入浴介助 2,000円

貸切り風呂 3,150円

👁️ 車椅子席は限りがありますので、お早めにお申込みください。

👁️ 移乗可能な方は、車内で車椅子から座席へ移っていただく場合がございます。(お手伝いいたします。)



バリアフリー対応！ やさしいお宿！ 昼神温泉「伊那華」 姉妹館「山翠」

トラベルパレットスタッフが下見をしてきました

👁️ お宿の手配や、リフト付車両(ご自宅送迎) + 介助付旅行の手配いたします。

👁️ バリアフリールーム以外にも様々なお部屋タイプがございます。



～美濃・多治見日帰りバスツアー報告～

マイクロバスで20名様、福祉車両で車椅子の方2名様と付添いの方2名様をご参加されました。

福祉車両の2名様は、ご自宅までお迎え。移動中の車内は、お話に花が咲き笑いがこぼれ、和気藹々とした雰囲気でした。

美濃では、ひなまつり期間でたくさんのひな人形を見ることができました。

美濃のランチ・さかづき美術館のケーキセットが大変好評で、「おいしかったよとお声をかけて戴きました。

マイクロバスでご参加のみなさんも、福祉車両のリフトに興味津々。いつの間にか車の周りに人の輪ができていました。今後も、堅苦しくなく、和を重んじる旅行をお届けしていきます。



さかづき美術館の1コマ

あいちトリエンナーレ

(8月21日～10月31日)

いよいよ始まります！あいちで国際芸術祭

あの、草間彌生さんも参加

国内外の多数の有名作家が展覧会を開催

ダンス・音楽・演劇等の舞台芸術やコンサート

あいちトリエンナーレ+名古屋観光はいかがですか？

介助が必要な方・福祉車両やホテルの手配が必要な方は、ぜひ、ご相談ください。

初夏に向けてのおすすめ！

専用車orリフト付車両で巡る北海道の旅

ご希望に合わせてプランをお作りいたします。

ご要望のたかいハワイも鋭意企画中でございます



JRチケットやパスポートを取りに行く。トラベラーズチェックを購入する時に付添ってほしい。

旅行の必需品を買いに行く時について来てほしい。などなど、1人では不安なことがありましたら、ご相談ください。

旅行の準備から楽しんで戴けるよう、お手伝いいたします。

トラベルパレット旅くらぶ ご案内送付をご希望の方、下記あてお知らせくださいませ。また「こんな旅をこじんまりと」というリクエストも随時受付中です。

皆さまのお声をお待ちしております。

申し込み・問い合わせ

「こちらから伺う旅行会社」 トラベルパレット

愛知県知事登録旅行業 第3-1214号

TEL:052-526-8008 FAX:052-483-8883

<http://www.t-palette.jp>

〔担当〕桜井憲子：sakurai@t-palette.jp

日・祝 休み/金曜日 COMBi 本陣常駐

(訪問等で不在のことがございます。当日でもご連絡いただくとありがたいです)

福祉用具のリサイクル情報 (10/3/30 現在)

欲しいもの、不要なものはありませんか？
リサイクルの輪を広げよう！

AJU自立の家は、なごや福祉用具プラザの中で、福祉用具のリサイクル品のコーディネートと福祉用具の販売、自立生活情報の提供などを行っています。

譲りますよ！ *金額の表示のないものは無料です。

ベッド、床周り品

- ・エアーマット (アドバンハイコオリティー) \ 60,000 未使用
- ・折りたたみ式リフト スケット \ 50,000 未使用

移動用品

- ・テニス用車いす OX \ 30,000 H.15 購入、週1で使用
- ・電動三輪車 10年前購入
- ・電動車いす MC3000S (スズキ) \ 200,000 未使用
- ・介助用車いす (ティルト&リクライニング) \ 35,000 2回使用
- ・電動四輪車 KE-007-NP (カワムラサイクル) \ 15,000 1年使用
- ・スロープ (幅85cm×長さ162cmの1枚板) 2年使用
(レール式2つ折、長さ190~305cm) 応相談
- ・1本杖 1回使用 未使用

入浴用品

- ・簡易浴槽セット 応相談 10回位使用
- ・安寿バスボードU-L 1年使用
- ・入浴用介護リフト (ミクニマイティエイド80) \ 100,000 5年使用
(リフトつるべF2Rセット) \ 50,000 2ヶ月使用

トイレ用品

- ・ポータブルトイレ (プラスチック製 FX-CPS アロン化成) 1回使用
(家具調木製) 3年使用
(家具調木製) 半年使用
- ・スカットクリーン (電動収尿器) 男性用 応相談 未使用

その他

- ・キャリングケース付きポータブルハンドシャワー (寝た状態で洗髪可能) \ 6,000 不明
- ・足浴器 応相談 4年使用

- ・クッションカバー (4cm×36cm×36cm) 未使用
- ・室内用リクライニングチェア (フランスベット) リサイクル品

譲って欲しい！

ベッド、床周り品

- ・1、2、3 各モーターベッド
- ・折りたたみベッドかソファベッド・パイプベッド
- ・マット (除圧、体位分散、エア、口ホ)
- ・サイドテーブル・ベッド手すり (パラマウント用)

移動用品

- ・各車いす (手動、介助用、電動)・シルバーカー
- ・電動三輪、四輪車・電動車いすユニット
- ・マイリフティ、つるべ床走行式リフト
- ・JW1 か JW2 のバッテリー
- ・松葉杖・歩行器・子供用車いす、バギー

入浴用品

- ・入浴用車いす・入浴用チェア・バスボード・バスリフト

その他

- ・紙おむつ・防水シート
- ・リーチャー・くつ下エイド (くつ下を履く補助具)
- ・各クッション (車いす用、低反発、円座、体位変換、口ホ、エア)
- ・クッションチェア Lサイズ・口ホクッションカバー
- ・各スロープ (折りたたみ、レールタイプ) (2M、3.9Mの板タイプ)
- ・段差解消機 (据置型)・電動昇降椅子
- ・リフト (つるべ)・靴 (22.5cm~23cm)(24cm)
- ・介護テーブル・徘徊センサー・ストレッチャー
- ・車用つり革・防水カーシート、3点とめカーシート
- ・トイレ用簡易手すり・立ち上がり用補助いす

「譲って」欲しい方、「譲りたい！」という方、
ぜひご連絡下さい。

<福祉用具についての問い合わせ>

AJUリサイクル相談事業部

TEL 052-851-0059 FAX 052-851-0159

ホームページでもみることができます。

<http://www.aju-cil.com>

読

者の

こ

え

の

読者アンケートへのご意見 part 1



いつも情報誌をご購読いただき、ありがとうございます。平成 21 年 2 月から 3 月にかけて、よりよい紙面づくりのためにアンケートを実施しま

した。お寄せいただいたご意見を今号から数回に分けて順次ご紹介させていただきます。

1. いつも情報を有難うございます。最近の私は、ダメダメ人間でして何がしたいのか、何が出来るのかが見えなくて、途方に暮れています。だから、この情報誌を見て、私も頑張らないとなぁと思っています。

この情報誌が、少しでもお役に立てるよう、私たちも頑張ります。でも、たまには道草したり立ち止まったりしてくださいね。



2. いつも楽しい情報を頂き、ありがとうございます。何でもあきらめない姿勢に、圧倒されたり、励まされたりしています。これからも身体に気を付けて、お互いに頑張っていきましょう。

ありがとうございます。私たちも、読者のみなさんの声に励まされています。

3. 内容が盛りたくさんでおもしろいのですが、毎回とか 2 ヶ月に 1 度とかアンケートや双方向に声をのせられるものを読者の人と作れると、もっとおもしろくなる気がします。

いいアイデアをありがとうございます。読者のみなさんと一緒に作る情報誌になっていけるといいなぁと思います。これからも、ご意見、ご感想等をお待ちしています！

4. 自分に感心のあることしか読んでいません。(ごめんなさい。)

問 2 の 福祉機器、健康、医療、福祉制度などに一番の感心があります。年齢的なこともあり、日々さまざまな問題や疑問を感じます。そんな時に役立つ情報があれば有り難いです。

役に立つ情報を少しでも分かりやすくお届けできるよう、頑張ります！

5. 日々楽しく読ませて頂いております。

ありがとうございます。これからも、楽しんでいただけるよう、頑張っていきますので、よろしくお祈いします。

6. 毎回ありがとうございます。

今、私は 2 次障害で医者の意見を参考に、これからの自分自身の生活の見直し、障害の受け入れ等、身の振り方必要な情報を集め、筋肉維持に努めています。

予防の為の手術に賭ける気力はなく、この首の異常のために、肩の亜脱臼の痛みに耐えています。何か明るい治療法はないかと・・・

2 次障害に悩まされている人たちが、少しでも元気になれるような記事が書けるよう、頑張っていきたいと思います。

7. 中途障害の方々の活動なども知りたいです。健常者の方やご近所とのお付き合いとかは、皆さんはどうされているのかなと思います。

ご近所づきあいは大切ですよ。身近な話題やいろいろな人・活動を紹介していけたらと思います。



まだまだ、たくさんのご意見をいただいています。つづきは次号に掲載させていただきます。

い ろ い ろ 情 報

第13回 国際福祉健康産業展 ～ウェルフェア2010～



福祉車両、車いす、介護ベッド、入浴機器などの福祉・介護用品、バリアフリー住宅関連製品、介護予防製品など、福祉・健康に関わる製品やサービスを一堂に集めて紹介する総合展示会です。

日 時：平成22年5月21日(金)
～5月23日(日)

開場時間：午前10:00～午後5:00

会 場：ポートメッセなごや
(名古屋市国際展示場)

〒455-0848

名古屋市港区金城ふ頭2-2

TEL 052-398-1771

FAX 052-398-1785

名古屋駅からあおなみ線で24分

金城ふ頭駅下車徒歩5分

問い合わせ：名古屋国際見本市事務局

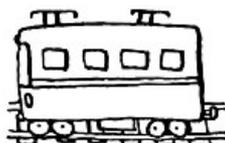
TEL:052-735-4831

FAX:052-735-4836

名鉄の駅にエレベータ設置

昨年度、名鉄の以下の駅にエレベータが設置されました。だれもが利用しやすい駅になっていくといいですね。この春、どこかへ出かけてみては？

岩倉駅、新瀬戸駅、堀田駅、梅坪駅、
三河八橋駅、甚目寺駅、青山駅、土橋駅



エレベータ未設置の地下鉄各駅の現状

2010年4月現在、名古屋市営地下鉄のエレベータ未設置駅の現在の状況は以下のようです。

駅名	状況
東山線亀島駅	地上～改札口 なし 改札口～ホーム なし 車いす対応エスカレーター 現在、設置工事中！ (今年度完成予定)
東山線今池駅	改札口～ホーム なし 車いす対応エスカレーター 現在設計中！ (11年度完成予定)
東山線伏見駅	改札口～ホーム なし 車いす対応エスカレーター 現在設計中！ (11年度完成予定) 伏見駅鶴舞線ホーム～改札口～インターシティのエレベータを使えば地上にあがれる 2008/9/30から
名城線西高蔵駅	3月29日稼働開始！
名城線矢場町駅	改札口～ホーム なし 車いす対応エスカレーター 現在設計中！ (11年度完成予定)
名城線市役所前駅	改札口～ホーム なし 車いす専用階段昇降装置 現在設置工事中！ (今年度完成予定)
名城線名古屋港駅	改札口～ホーム なし 車いす対応エスカレーター 現在設置工事中！ (今年度完成予定)

となると、11年度になったら、市営地下鉄の全ての駅にエレベータが付くことになります。めでたし！めでたし！

■ イオン新瑞橋店OPEN!

今、イオン新瑞橋店が3月9日よりオープンしています。早速、読者のSさんが行って来たそうです。

身障用駐車場が立体駐車場の中にありますが、表札が小さくて分かりにくかったそうです。

Sさんの車は高さ制限(2, 2m)に引っかかってしまい、立体駐車場に駐められなかったそうです。そこで平面駐車場に駐めようとしたら平面駐車場には身障用駐車場が無かったそうです。

ちなみに、立体駐車場にある身障用駐車場は一般者が駐められないように、リモコンゲートが設けてある駐車場もあり、イオン大高、イオンドーム前店ですでに登録を済ませている方は再登録する必要はなく、同じリモコンで利用可能だそうです。

■ 車いすダンス教室

音楽やダンスが好きな初心者を対象に、車いすを使用したダンスを体験する教室です。

日 時：平成22年5月23日(日)

開場時間：13:30 ~ 15:30

会 場：長良川サービスセンター
(ミーティングルーム)

対 象 者：対象年齢無し(但し、中学生以下の方は保護者の同伴が必要です)

参 加 料：無料

定 員：20名

申 込 先：長良川サービスセンター
TEL 0584 - 54 - 2075
FAX 0584 - 54 - 5275



え~、今号から編集後記を担当するナベです。

凄かったでっすねえ!バンクーバーパラリンピック。金3個、銀3個、銅5個の合計11個も獲得したんですから!特に、アイススレッジホッケーで優勝候補のカナダを下したときには、めっちゃ感動した。車いすカーリングも、初出場ながらよく健闘しました。

さて、今号で特集した「自分らしい生活って何?当たり前生活って何?」は、AJU自立生活体験室を経て現在訓練中の人、及び地域で自立生活を送っている人で構成するワーキンググループの座談会とレポートを載せました。いかがだったでしょうか。

AJU福祉情報誌は読者の皆さんの声で支えられています。「ここにこんな情報があるよ」とか、「わからないから教えて」とか、「この記事よかった(悪かった)よ」や「特集して」など、何でもどしどしお寄せください。できる限りお応えしていきたいと思っています。

(ナベ)

編 集 後 記

医療相談室

長年、診療機関で障害を持つ仲間の医療ケアに携わってみえた「リハビリテーション医の万歳登茂子先生」のご協力で開設。

《相談日》5月15日、29日
6月19日、26日
いずれも土曜日、予約制、30分程度
時間は要相談

《対象》障害を持っている人

《費用》無料

《受付》自立生活情報センター

TEL 052-841-6677

FAX 052-841-6622

E-mail f-joho@aju-cil.com

《場所》名古屋市昭和区恵方町 2-15
(社福)AJU 自立の家 サマリアハウス内相談室



やさしい住まいの支援ネット

障害当事者、福祉、医療、建築関係者が有志で開設し、住宅の改造などの相談に対応。

《相談日》5月15日
6月4日、18日
いずれも土曜日、午後1時半から

《費用》無料

《受付》サマリアハウス 浅井

TEL 052-841-5554

FAX 052-841-2221

E-mail sumai-sien@freeml.com

URL http://sumai-sien.com/

《場所》名古屋市昭和区恵方町 2-15
(社福)AJU 自立の家 サマリアハウス内



訪問マッサージ・リハビリ

自宅療養・歩行困難の方が対象です。寝たきりゼロのためにご利用下さい。

健康保険が使用できます
(医師の同意が必要)



(株)東洋医療グループ

ひかり鍼灸院

緑区鳴海町字大清水 69-1029

☎ 0120-56-0348

http://www.hikarisinkyuin.com

お気軽にご相談下さい。担当 / 牧野

情報募集中!

障害福祉制度への意見、町で見つけたアクセシブルな穴場、あれ?ちょっとおかしいな?と思う車いすトイレの造り、親切なお店、グルメなお店、みんなに聞いて欲しい事件などなど、皆さんからの情報をお待ちしています。

ぜひぜひ、編集部までご連絡下さい

編集部

TEL 052-841-9888

FAX 052-841-1015

E-mail f-joho@aju-cil.com

お待ちしております



隔月発行

年間購読料：1,500円

振込先：

郵便局 00890-0-90573

お問い合わせ・購読中止のご連絡は、こちらまで...

TEL 052-841-9888

FAX 052-841-1015

E-mail f-joho@aju-cil.com